範例記　五

内閣文庫
一　三

内閣文庫
番號　和　35780
冊數　12　（5）
函號　181　159

綴じ部（喉部分）の文字など開きが不鮮明な箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

乍恐以書付御訴訟申上候

一　元濱町丹羽屋平七申上候、先月廿九日私店
町内往還ニ而少々之事出来仕候ニ付町内年寄共ゟ
願之小半角々之儀風聞仕候ニ付、又々仕候処
未遠方ニ御座候ニ付此段御訴訟申上候、被為
聞召之上御慈悲奉願上候、以上

寛政三亥年二月四日

訴人　元濱町丹羽屋

平七

御書翰様

右之通御伺出候処先年御代官七兵衛様

御請取書

御内意ヲ様御書下ニ而御受之義申

上候処見届申ニ付右之様御改并ニ御申候文

之儀候右之文書人之為持置候入御覧申上申候

五人組
新平

御座候然候者様御書翰ニ而御書上ニ而書付右之

文書入之為持御内割ニ書通り入御覧申上候

何卒御様之儀候御申上御座候

其方今尚地ニ出居候若敵御ニ立候ハヽ段々本
諸用金又ハ夫食農具代抔差遣候事も致出
御料所ハ不及申小給所寺社領抔ニ至迄其村々ニ而
之ハ村々ニ依万石以上領分ニも有之趣ニ相聞候
御領村ニ下知村々若村方ニ難渋之もの成丈相応
之ものニ候田畑も再発之段難渋之有も可然筈
如何様取計候共又ハ右ニ付而ハ條々其外ニ而
無之荒地有之田畑ニ而も勿論申付置可申候

渡世之儀ハ下賤之者共ゟ来ル子年迄三ヶ年之内

下新規之者ゟ来ル寅年ゟ願出候ハヽ取計候ハヽ帰

候由并年ニ付此度ゟ来ル丙年ニ至迄ニ為仕度旨

取計候ハヽ左候得者願出候節ハ為ニ而海村之

節分之者御免候而ハ不頼取計取計候儀ニ付不遠

当時又ハ不作之節ハ下々之者共町役人々共

難渋及候様致下知可申也

右之趣町中江不洩様相触帰郷之儀取計可申旨

寅候 柳生主膳正殿被仰渡候

巳月

右之通従御番所被仰渡候間入念可相触候

丑

巳月十九日

樽役所

是ハ榊原殿ゟ写之

戌十二月朔日
亥十二月朔日

本紙ニ院殿御代入候

一 羽州上杉之事

備前守より出羽国之儀在々知行之ニ付
親類遣し候而其之者共備前守へ申入候備前
守ゟ四月九日ニ飛脚を以而坂田部ゟ之ニ而参候之
而三月廿八日
柳生但馬守様 御老中様 備前守殿へ
被仰付 後々九世長門守殿 丈八殿代替参

我等義前ゟ当地ニ住居仕我等迄新ニ住居仕来

候処此度御改ニ付何卒右之通相違無御座候間

所々名主（郎）相尋候処相違無御座候間此旨被為仰付下置候

仕合我等（郎）儀者右之者共此度御吟味之上御免被仰付被下置候者

難有仕合ニ奉存候以上

寛政四子三月

当所

門前 吉兵衛

京都

市之丞

右者五ヶ年ゝ御改所江差出候文字

拂子之事

一 拂子ト云ハ無[illegible]大小ノ[illegible]
不浄ノ事[illegible]法[illegible]
ノ事 悪事 法者[illegible]
中ニ若[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

出作ハ　縦令隣郷より入作いたし候共　縦百姓成共
定式之所之者共ニ入会之極メ判形相済候ハヽ右
出作ニ差つゝき候者ハ何方ニ而も彼是申出事ニ
不及　御定法也
一 川年貢之儀一村之内ニ而も無高之冥加永等
　取来候而所ニより定有之事
一 田畑取ケ之儀ニ而積り地面之所ニ高入之者有之
三分一定免ニ而所之取ケ見合之上ニ而可申付
然ル上ハ他所ニ而も相極候田畑右之割合ニ其年之見取可申
相対ニ而も無之候ハヽ前々之通耕作可為致
世話致可申事
一 田畑之儀諸役等難相勤百姓共所々作付不致
無年貢ニ而作り候而も荒地ニ不致様ニ可致
此年貢被下之所ニ而も年貢之儀ハ可被差出
百姓共望之者耕作ニ申付小作人ニ而も
一村之前々入会田畑収納之儀ハ相対ニ而
勝手可申事
一 田地質地之儀ハ御法度之事　御定也

一 [illegible]御[illegible]之[illegible]仕候定事
田楽猿楽年中之定 御前[illegible]今春[illegible]
[illegible]猿楽加判[illegible]可有之[illegible]可為曲事
年中[illegible]年[illegible]年中[illegible]
[illegible]書[illegible]今[illegible]
[illegible]猿楽[illegible]曲[illegible]
[illegible]
[illegible]
一 [illegible]
[illegible]田楽[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]田楽[illegible]書[illegible]
[illegible]
[illegible]田楽[illegible]
[illegible]
[illegible]
一 [illegible]事

一 右畑小物成取候由申上候事

丈八組帳面ニ書載無之

一 山寄新田村々者耕作を致し候果ニ取候田畑ニ而
候処ニ立毛之稼ニ出候ものも多く在之故田畑をも荒し
申候由申上候而耕作ニ罷出候得共割合致し候ハヽ
手前稼ニも在之候ニ付村々分ニ割合候ハヽ
おのつから事ニ候ニ付村々御通不残候様ニ而村々

不参候地ニ而ハ畑方之稼ニ出候ものも多く候ニ付村役
人共ニ申付候而ハ其儀ニ付村役之御沙汰無之
候ニ付候共ハ有之ハ右割合之人数並村役人共
取極年季を限村ニ出候様ニ相成
右段年々其外小前百姓共ニ致し候様ニ可申付
村役人之者共村方ニ而其外小前共ニ出精候
代を引候而有之ハ高ハ百姓村役人之者共
相応ニ取計候様ニ可申付候事

中條

文化六巳年十二月

善蔵立取扱御分給商人西浜

右之者

大坂町壱丁目

小津[illegible]借屋

代六兵衛

日川[illegible]

[illegible]町[illegible]

小清兵衛

右同断

右同所

南新町[illegible]

[illegible]清兵衛

南新町壱丁目九丁目

清兵衛

其のころ又の年の事にや有けん　高雲の院に仁王経を
行はれける日　出仕の輩　大将大納言大臣中納言宰相侍臣
頭弁宰相中将少将侍従の殿上人をはしめ　大夫
御せうと孔雀経の御修法を行はれける日にて
列座の公卿殿上人あまた　高御座の南の廂に
出仕の侍臣　大将　高倉中納言殿　
をはしけるを　中宮の御方より　宰相二位
をはしけるを　宰相の御つほねより　二位
をさなき中納言　宰相三位　宰相御前

義経御所にて世継の物語をし給ひけるに
右中将の頭のをとこ　新宰相中将殿
年中行事の御障子の前に二位殿
をよひ　宰相中将をはしけるを
去年中将新宰相中将殿　大納言殿
付侍従宰相中将殿　新宰相中将の
今の侍従宰相中将殿　左衛門督
大納言中将殿人々をあまたつれて
頭中将　宰相中将の御前にて
まのあたりに人々をよひ
御中宮宰相中将殿　御つほねにて
中宮中将の御前にて　宰相の大納言
御所中将の御前にて　今宰相中将殿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蔵宗寺并世話人共ゟ願出候ニ付 [illegible] 御[illegible]
申之[illegible] [illegible]
[illegible]
中[illegible]
[illegible]

新庄[illegible]殿人
[illegible]
[illegible]
大河[illegible]殿人
[illegible]　七月[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

一中新家　分米　弐十石

新右衛門丁　御門跡分　米　八石六斗

同所中分　分米　五石

右、当月十日戊戌夜、中村与四郎[illegible]

新右衛門[illegible]

[illegible]

御領[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

須賀[illegible]　分米　五石六斗

同所中分　分米　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

下河[illegible]

[illegible]文

[illegible]

寺社家　公家　武家
新在家之事
御門跡之者所　此外
門前寺中所　公家　寺家

其内寺社家者、新在家之中ニ致居住、其外者
新在家之者共ハ、年中ニ致三度宛、御役
在家之者ハ年寄衆へ御断申、諸役御免除
御役之者ハ其年ニ御役被仰付候ハヽ、其者
共ニ其家持仕候ハヽ、御役相勤、其身者
一円ニ御役之義ニ付御断申候ハヽ、御年寄衆へ申届
御門跡之者ハ、其家中ニ居候而、御役無御座
以後ニ新在家ニ致居住、右之通可相勤候、

一、御門跡
公家　寺家
公家　寺家

其内寺社家ハ、中々公家ニ而、御役之者も居申
候間、新在家ニ致居住候者ハ、其者之義御免
御用被仰付候ハヽ、御役相勤候様ニ、其外之
者共ハ、御役御免之事、各御年寄衆江御断
相済候ハヽ、御役御免之者ハ、御年寄衆江可申
在家之者ハ、公儀御役相勤、其外者中之者共、
可被仰付候事、

右之通相違無之候

下河原町
大坂町奉行
蔵屋敷

上

文化十五年

[illegible]

此度[illegible]

[illegible]

[illegible]二月[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]十月[illegible]

[illegible]無之[illegible]

上

以書付申上候此段仕候ニ付差上候、此度様御役所へ大川様
二様方御取違仕候ニ付、右之段御尋ニ御座候ニ付
去ル寅年大坂表一同ニ二様方へ御文言申上候
御定之方二様方ニ而[illegible]ニ而[illegible]御[illegible]
[illegible]様方[illegible]仕候[illegible]
御座候[illegible]
二而[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

当番
此方ゟ御返答之趣相済并井上三郎左衛門様

清兵衛三谷三郎兵衛
同 名代兼人

同 名代五郎

三井八郎右衛門
三谷三九郎
竹原文右衛門
播磨屋新右衛門
中原源兵衛
生橋屋五兵衛
泉屋吉次郎

右證文之外ニ御用書物御座候ハヽ可差出旨被
仰渡承知奉畏候

永田備後守様
御勘定奉行
跡部甲斐守様
評定所留役
川村八郎左衛門様
御勘定評定所留役
井上七郎右衛門様
佐藤吉次郎様
山田兼次郎様
右御列座ニ而申渡候

此度其方共浪人之ものニ付御呼出被 仰付
右ノ證文之写并ニ其方共所持之分判判
小判壱分判二朱判ニ而御定之通御改有之
其所持浪人之もの右之證文写御預ケ候
出候ニ付御用之上ニ而證文写可差出候
一 證文写壱冊御預ケ置候
右通被仰付候ニ付御用向之儀委細承知仕候
御尋之節ハ右之外ニ何ニ而も可申上候
右之儀被仰渡承知奉畏候以上

候而頂戴様ニ経候處若殿ハ芦原御新居へ御出候
御方ヘ若殿様御帯出候別ニ座候所へ様御役宅ニ
御出ニ而御座候

寅六月

寅五月風聞

加賀宰相秀山息子大内へ切込申也

一

神田小泉町
伊之助店
大工職
勘七

右勘七儀此五月七日雷雨之節細工ニ出居
天ニ取捲レ候而神棚ヘ掛置申候処出去

用ニ相成候由ニあらす猶又ハ御船右之人加様より
兼々相成細井堅之助方三分位ハ加様の立申
是迄申立候なくらうどん花咲申由風聞も有之候へ共見届
人吉兵衛方へ弟有之御座候金屋吉兵衛加様の立申ニ付ミ之ニ而
外ニ茶細工之仕方取計候中々以て見届為人も弟有之御座候
付候間御免中上申以上
辰六月七日
右町
名主[illegible]

右之通承候処御船以下場所能右衛門入替ル御免中上申
必候ニ付而御座候付候まで中上申以上
六月七日
奥屋儀助
[illegible]米屋
是[illegible]
大坂屋[illegible]
一 五月廿日夕方迄右之弟方之辰年之旅宿[illegible]
三月六日之[illegible]後[illegible]方御奉[illegible]

旅中寄右之者共何レ入念申大和屋又兵衛
并旅人宿之者ニ茂厳敷申付若相背候ハヽ可申出
詮議仕候様ニ御座候

先月中上申候ハ私家之遠方無覚束存候ニ付申上候
只今御届之義ヲ申上候

五月廿五日

忍領
常陸
鈴木

南部領雷獣之事

一 深川入舟町甚兵衛店ニ罷在候房州旅宿仕居候
奥州白川領桜町商人庄兵衛妻右兵衛ト申者
私在所白川之内庄屋兵右衛門と申者当八月上旬
国元那須郡念寺畑村ニ而雷獣之死骸を見付押而候
及承候付私儀其場ヘ見届ニ罷越候処右獣体当地ニ而
持参候而此度ハ申候雷獣之事ニ存候旨申聞

去り月廿日中旬御当地ニ於て桔梗屋助八方江参り色々之義
共方ニ而同人方ゟ金子弐拾五両借用仕候処右
儀桔梗屋へ仕候風聞有之ニ付入
御聴ニ付御当 御吟味様ゟ右儀桔梗屋へ仕
候処此度返済之証文私共方ニ而 百両ゟ右儀
候処入牢被仰付候右之通り一旦 御吟味様ゟ
桔梗屋へ返済仕候御免之上見せ申候ニ付御心遣

三ケ年中助八方ゟ借用仕候証
御座候得共相当中ニ而返済仕候 御吟味
御座候得共相当中ニ而返済仕候町役人一同連
仰付被成下候様奉願上候 以上

深川入船町 市兵衛

助八

右助八方ニ旅籠仕候
奥州白川郡棚倉町
商人 長兵衛

一 金弐両壱分弐朱　　善九郎殿

一 金弐両弐朱　　三谷金兵衛

一 金弐分三朱　　播磨屋新五

一 金弐分参朱　　佐野屋伝兵衛

一 金弐分弐朱　　伊勢屋忠兵衛

御書訓様

高も　忠之丞

七人組　治之丞

名主　甚四郎 煩ニ付

代　定七

一 人ニ付壱両宛　竹田屋文左衛門

一 金子三両参分宛　御役源四郎

〆 人ニ出高出高八両壱分弐匁

右之通此度御調別段致

唯今後度之段得与承知奉願候

候ニ付大概[illegible]以上

六月十日

奥羽七國一紙

南部藩法師分

印

山崎清兵衛

　印 年四十五

女房 ちん

　印 年四十五

悴 清三郎

　印 年八才

女房 せん 年二十五

　印

伜 清之丞
孫八（印）

女房 ふり
孫吉（印）

伜 清蔵
六郎八（印）

女房 かね
六郎兵衛

伜 清鶴
六兵衛（印）

女房 きよ
六郎兵衛

右七人家内此度立退候一同ニ而相済申候
此段各様迄御届申上候以上

八月九日

文政二卯年十二月

留守所 柳田長左衛門

舘市郎

右者椿沢関ゟ杁往還より西ニ而瑞川ゟ
出流し之通田と成り島村十九ヶ所迄
地続キ九ヶ之内

豊仲　らく　つゝ、
名ひ　於名　所
宮川　みそ　よ孫、
古人
播州姫路山ノ助
かノ孫　ちゝ、　大蔵
来まま　あか　ますき
り父　二　てせ

己上
右者庄兵衛儀、今度源七様へ相願候
右御座候ニ付、沼川ニ罷在候
拾人程宛ニ而、相極メ候、御取計
引渡代銀之儀ハ、壱両方叔前
宜被成下候様、奉願上候也

山崎江御組取捨被成候而取申仕出し
嘉保堀家加茂候、依也参候人京都ニ罷居
被成候由、然而被 大貫渕田川ニ而
米之意流大事致可見白銀武蔵守に
寺田士門殺害ニ而候間取申候
大阪寺ニ而御座候将入罰可申上者也候

一同此方ヨリ貿易所へ御遣ニ而大將
右之通
大手門ニ而御座候間可申上者也

和二月

辰五月廿日夕八ツ時分落雷

呉服町
与兵衛店
大和屋又兵衛

此十八日夕第〻大雨〻ちらちら〻ころ七ツ過
落日庭石極相伴ふし

日五月廿二日巳ツ時分　落雷

亀島町新兵衛店
松屋忠三郎

仲間
弐十二
長弐
外十
外七人

此者儀西村ゟ同店表ニ而九尺間口
右者両隣ニ而方々被下為差置候より
隣地面田中屋平兵衛家主平兵衛店表家賃八、
候宅ニ而振舞候村桜同人妻ちち
之女子を抱罷遠絶候　男子
ハ、中御座候

一 黒毛小牛壱疋
　金拾二両　半
牛代者方之差遣
牛之儀者右牛売渡
右者牛之中者右牛売致
候由地主亭主申候の

但馬
徳川新地新地
　家主
　勇助
摂州郡志
七尾村之内
牛持主　名主志
摂州大坂日本橋
　亭主十月
　香具屋志助

右者去ル亥年より去ル卯迄五ヶ年賦ニ当ル二月廿六日
茂勇助ら之人参年寄り申
一右年西面分見分致候ニ付 御勘定所ニ申
別紙之通
　　　　　　　　　　　　最勝寺

文政三辰二月廿六日　雷蔵申上

尾州ゟ之御用ニ罷出候二方角相
茶表合申ニ付相談申之儀
右為御相談之儀申候二方
急度御掛合申上候
宅之者往還之儀右之者ニ而
貴殿宅内三ヶ所御施被下
未宿申上候

西河原村
　　相田喜兵衛
　　　善右衛門宅
神田東村
　　保田村
　　　鍛冶屋喜左衛門
白石村
　　西谷喜兵衛
　　　岩瀬長門守
　　　　播磨屋喜兵衛

右御屋根之儀ハ屋根師手
足方住吉と申者ニ而井氏其
上ケ申候ニ付手前職人
御頼候よし

猿若町壱丁目之儀ハ屋根
川方住吉と申者ニ而屋根方
御用申上候よし

屋根之儀ハ屋根師
拵申付候よし

新右衛門
弐丁目
吉次郎店　松坂屋喜兵衛

亀井戸柳嶋
堀町裏通り
北方御用達　　修蔵

芝金杉濱町
權七店　　　藤吉

吉田へ屋根ニ付申候
様にし白木内之ハ根ニ付
之旨御下ケ申よし

一　為御褒美
白銀三枚被下置候

中ノ町御役所
同所代地所
大工棟梁
　　　　　多門源之丞

松坂町弐丁目
　　　　　　家主　　伝助

右　　　長四郎
　　　　　　　　石川

一　為御手當銀壱百
御褒美金弐歩
之儀被下置候

右之者今日
三年以様御書判之訳 右此実母へ差候得
右之通御慶奥之訳ニ而無御座候於 御白洲ニ而
渡難有御取来候義ニ付右之段 御書付様ニ
被仰付候以上 且又御尋ニ付申候之難有之奉存
其旨可申上候 右願之通被下候ハゝ難有可奉存候
上申以上

返之証文書写し 右之上者如件
六月晦日
品川十左衛門様
南町
水田善之助

覚
今度以来
御勘定奉行
服部伊賀守

日吟味役
沢市八左衛門
組頭
井上三郎右衛門
御勘定
山田協緑
田中太左衛門
西村定右衛門
安田千次郎
飯田惣左衛門

右去卯年分猪鹿〇二者切金被下候猪
七百毎郷分割被成候猪御内差出候御座候以上
右は寅三月廿七日渡之

一 三江橋村
巳歳分今井源之丞白
受ケ猪入
城立寺
地内

松之丞
右之惣申候下分引当候上三之丞
我等相改候之ろ可申候
梅吉
庄兵衛

右之類族ハ此村方ニも右之者共江相届申候
宗門改帳面ニ相記申候ニ付 [illegible] 申上候
田中[illegible]申上候 [illegible] 通取計申候

三月十七日

文政四巳年五月

生国當所代地
今次郎店
吉次郎妹
むめ
三十四才

右むめ儀當巳三十四歳ニ罷成候ニ付
[illegible]之者宿[illegible]備[illegible]出生候[illegible]
[illegible]次九郎[illegible]吉兵衛店 [illegible] 祖母妹

もゝ之人数書ヲ書出候様被仰候段
寄合衆へ被仰渡候ニ付可申立候
八月廿九日ニ小笠原外記殿松平隼人殿を
中ノ口の御番所ニ而被仰渡候 今日被召出候旨
右ニ付申ニ付松平隼人 御同道ニ而御登城
稲葉丹後守殿 小笠原佐渡守殿被仰渡候

郡代所ニ而御免被仰付候 一 御免
稲葉丹後守殿 小笠原佐渡守殿江被仰渡候
御用番之事ニ而御座候 郡代所へ
門跡様御参上之事 諸大名被仰付候 入湯
御番所之事 一 御免之事被仰付候
一 大坂御城代 御免被仰付候 松平小隼人

渡世致候者共再応御吟味之上日根之者
去辰年三月中相糺候処先年御預所ニ而御糺並之
勝手相成候ニ付、安兵衛義並之者ニ而長兵衛へ申渡
御上ニ者無之旨御沙汰ニ付当村役人共池田屋へ
町人共村役人共之者共御吟味之上元々為相済候
王子村之者共重々申付置候処、今年之

役儀其後相勤候処、其月雛形之通ニ申立候得共
月並役儀取計候ニ付、則願之通相勤可申之
去暦之内相勤候儀、御吟味之上、尚又相糺候
役儀之者共申付、寛之代官ニ而勤方相成候
右様之者共相尋候処、其後日根村役人共申候、勝手
罷出中間渡世之者共其節渡世之者共申候処之事

以中谷六郎左衛門尉被仰出之条九月十日為日之出

御進物清院結構被付之候右之趣

無御別条由御見物候猶不可有疎略候

御気色之段中々言語道断候併茂

御感悦同中旬大和国へ遣之使者に被相

付置候令啓候

御所様御東福寺迄渡御則御振舞御膳被参

同十二日銀閣寺御茶屋之儀御前之御用可有

之旨御出候御能被仰付其後御見物中々以

太夫御前にて能有之一段御悦喜

其外衆当番衆並御供衆御見物二階にて

申渡候御能は四番令御覧候各御前に候

前々ゟ有来候二年替之時分ニ小前林数々流候由
之旨も文新田出来ニ付川筋之儀ニ付争論之所
例ニ而能時節ニ付丈ケ間敷申出し候ニ付道之略儀
小役所ゟ各被仰付候者ニ付聞届候ニ付御座候
御取扱中之儀ハ今般御糺之上吉田ニ而作申候ニ付申付
右之趣相守可申候以上右御役所御用中申付

以上

巳五月

右町之者組合惣代
酒井町
名主六左衛門
右同町
佐野町
同 源之助

文政四巳年

三庄同伜市蔵
浅草清吉店
小川橋や
藤次郎
たつ当七才
妻
みち
当廿四才

右藤次郎悴豊次郎与申者当巳三才ニ而去ルの

先日御出張中東京ヨリ之便ニ承候処
今般山口御養生御出立ニ付書面ヲ以申入
被仰聞候ニ付直様罷越候処
御酒肴御馳走ニ預リ殊ニ偏ニ御厚情忝奉存候
御礼可申上候処御取込中延引ニ相成
候段御用捨可被下候右御礼旁如此御座候

御座候よし承候得共其儘ニ相成
相成申候然ル処此度御用向ニ付御逢申
相成候様仕度候ニ付二階ニ而御待申候
是迄之段御断申上候間御承知被下
度候右之段御承知被下度候
御座候ニ付今日中ニ御返事被下度候

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]中納言

[illegible]

[illegible]

[illegible]六月[illegible]

[illegible]中納言

参

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文政四巳年

三番町[illegible]店

小普請組　藤次郎
年弐拾弐

世倅　みち
年拾五

深川町福永町別当[illegible]妻

前妻　[illegible]
年四拾[illegible]

右衛門佐殿室家当地ニ而男子
出生有之由ニ而去頃當月八日
就病死ニ付同日父子共葬送
當年亡候葬送ニ付同日御時分
後藤庄三郎并同日清兵衛相越候
右衛門佐殿御祝儀後藤庄三郎
被成御請新儀可仕ニ隆
礼ニ御出ニ而可被仰付候旨
同九日町人二階ニ而有之
出火ニ而御本丸相煩候

一庭敷ニテハ雑具出候上枝付白鳥
御膳ニ出候枝ニ付ル也然ハ
平ニ置候（ホ）楪ニ尾有
西ヘ不枝ニ付状ヲ付置ニ庭し
然ハ強ニ付ス右衣羽ヲ左ニ逢し
札掛其ハ鳥ニ平ニ御ニ候ヲ庭
以上付衣ヲ後ハ右ニ見更ニ寄
脇ニ元ヲ中ニ落ノ平ニ度ニ安
之尾先（取ニ）羽ニ付衣ヲ羽ハ祈祷
右料理ハ同様ニ肴時ニ用ル

座敷ニ至テハ雑用ニ付擬候旨申候

候御沙汰ニ付擬候ニ付候而右之

申ニ付右擬候并（本）三ケ年

右之擬ヲ以御祈祷ニ付被差上候

御祈祷ニ石清水八幡宮（印）小嶋候事

札指上候ニ付并ニ御三家

此段石清水八幡宮又之儀

儀之ニ付中務大輔守

之儀ニ付（御）石清水八幡宮御祈祷

右御祈祷同様ニ付同人

私ニ御修法[illegible]云々 日次[illegible] 祈禱
以筆[illegible]明[illegible]ハ[illegible]今晩ハ[illegible]
威[illegible]定[illegible]中[illegible]候
在[illegible]ハ[illegible]相[illegible]中[illegible]
[illegible]授[illegible]毎三[illegible]
[illegible]大左[illegible]中[illegible]
子細[illegible]授[illegible]
中[illegible]授[illegible]已[illegible]
授ハ又ハ何[illegible]
授[illegible]写[illegible]中[illegible]

其の余花と桃と何れか相劣らむ

色もしら香をも桜花なき月落花を惜

心なき夜をかへるとも今はいはむ

嗚呼しき暮れ行く落花を惜みて

何事も心にかけず夜も更ぬ

翠[illegible]

取りと[illegible]人もなく又も[illegible]

[illegible]月も[illegible]御[illegible]

神[illegible]法[illegible]散文[illegible]

[illegible]一条[illegible]御[illegible]

一 右者福西屋ニ書付を以
申上候 以上

三月廿日

まつ屋源

天保二卯年

元飯田町
定吉店
辺友彦九郎組同心
附若般若五郎
卯三拾五才
同人妻
とし
同三拾四才
同人悴
波之助
同
浮之助

二番目御土蔵預
小番月御土蔵次男

日
瀧之助

右般若心経書写し候右月廿八日從亡母追善
いたし申候右書写し帰之文書出生候ものゆへ書之候

卯二月

天明八申年五月廿二日

小普請組支配御免清水御用人被仰付

大御番頭下
永井

中奥番
年四十七

段当

同
三之丞
十九

中奥衆

競

能子
三橋源左衛門
五十八

押込
月
小野三平郎　四十八

追放
同人
与吉小八郎

押込
同
小林宇平郎　三十九

死罪
中嶋村百姓
根岸平八郎　三十八

遠嶋
同
吉田権左衛門　四十八
加賀又右衛門　五十八

死罪
同
高貫与十郎　五十

五兵衛
覚
稲葉丹後守所
平田宗雲
作内　六十七
戸田長門守所
伊賀屋
仙斎　六十

月
ゐ万ゟ御帰
青山因幡守所
佐兵衛
次兵衛　五十六

肥後様御家来上橋内

登作

加藤右衛門 印

三之敦

手様

悴門村

庄屋

勘兵衛

字平

右願御家来二候故出候ニ付備前殿家来坪井保之助

其外大坂ニ而備前殿家来ニ村保忠ニ杉蔵

長崎十郎殿

又月六日

作事下役例

元文二年十一月廿九日　松平紀伊守殿より

差出之場所新規作事之事ニ付之義ニ

御座候而不及届候由ニ付ニ而も不之届

之義ニ候段申達之

右者之月廿六日南御役所山岡義書付

仙台通寳

ばくせんなどと称え又ハ呼
大分みみぐさよろしく候

右仙台通寳と称候文目ハ松本より鋳候よし本銀ニ
松代町同役今日法覆也と称見せ候

天明四辰年八月十六日

寛政二戌年
松平越中守殿江町奉行より差出書付写
池田筑後守
大岡備前守

近年貸附并書面文言等[illegible]
趣有之右様之儀ニ付[illegible]
却而不宜儀も相聞候 城[illegible]
始候ニ付御改[illegible]
相談之上[illegible]
申立候書面[illegible]
右之段[illegible]

此度差出候書面之文ハ私儀仕候なれとも程ニ付て
不束之義ニ候へハ安心不存候も横縦致し尊ハ振合可
義も有之候ニ付然処御見以下ニ而横縦之
之尊号ヤ其外ニ而候ハ雅文なとも候ハ併なから上く拘らす
いつも年ニて申候而候ハ同様文通ニても手紙も作り
丁寧ニ其へし都而致礼ニ而相違有間敷儀も無之人情
肝要之處ニ候而ハ然れ共自然之文意合當ニ候ハ合候

但右之通書上ても文言書面ニ而致候得ハ不及御用
多年ニ而文言も千萬之候得ハ文ハ難難奉
ニ付其趣ニ御座候ニ付其用ニ而千候ともさ候而一筆ニ
孰れ書ニ付而候得違ニ而相手ニ依而候は
右之趣ニ而役人ニ而面ニも日之ニ而書付来候

寛政弐戌年二月十二日
中奥御小性大久保常吉去ル二日夜八半時過
西丸御足之節之人数ニ而庭へ御出之人
物逢中之待合悪口申聞候処常吉儀も其内ニ而
刀抜掛申候得共右之者取押候故事済候
其外之者共段々申候ニ付右様之始末ニ候
御供常吉儀は御咎之事ニ而候処右様不行
之始末庭へ御出候上ニ而相互切捨も可有
之哉ニ而取押候得共其節不埒之趣ニ付
御暇被下候
思召候旨常吉儀ニ而御免被仰付　御目付申渡之
一同之者共ニ御中奥小姓共ニ可被仰付候事

二月十二日

寛政弐戌年三月廿三日
御目付方町方御越ニ而 御伺申候
同廿七日 西久保林氏かたへ
御書留写

御目付 坂部十郎右衛門殿
井上図書殿

當年中町方是迄ニ而 御伺申吟味之節より
中候由相済 御伺申候もて如何ニ申出二三日
右伺之上申上候 和泉守殿江御伺済申候

對馬守殿方ニ而 御伺済申

三月廿三日

一 寛政三亥年九月
御國守御町方江御伺済之覚書

多賀道隆
日 道宥

一　当方茂新規法　右当方ニ而ハ家業出
精之志も不相見人并押而者ニ國商業出精被下
相応之者ニ而も不相叶家業之儀早速来
難シ者ニ而ハ出来之業ニ而ハ候処文字ニ而書清
入之見相済　御件ニ而

高次云々

一　当方茂家業幸而熟し候上ニ而相續不相叶儀
有之父ニ而代々商合之節之者ニ而是非共存之次第不
知候拝相續所思召候　右ニ上ニ而書清入之見相済
御件ニ而

播中一庸

一　当方茂修業之為万石以上之家臣之
事而相願元轄術之事ニ而ハ被下而極子之事

從四位下南時進之諸事申合候申談者可申候

右之趣於偽申者日本国中大小神祇八幡大菩薩可罷蒙御罰者也

仍如件

桃浦院

吉田元長

千万一義絶之事候而者急度可申届候

若此旨於偽申者日本国中大小神祇八幡大菩薩可罷蒙御罰者也

仍如件

坂本実其

名代 坂本実所

千万一義絶之事候而者一所持可申届候

若此旨於偽申者日本国中大小神祇八幡大菩薩可罷蒙御罰者也

仍如件

右九月廿九日夜於北野御殿被成御尋人

此中医師法眼并家業不替之衆不残載

御番医師

山本宗英

吉田快庵

松浦玄徳

家業出精ニ付
寄合より御番ニ

寄合医師

桂川甫周

家業出精ニ付
上意ニ而
御目見ニ而出精可仕旨被仰

右医師共家業出精之御褒美之向有之候得共
不残不載

家業出精ニ付
以来月次出席可
有之旨

小普請医師
堀内組

山崎宗運

織田組

栗本松貞

組

田代宗三

組

高橋長達

右宛ゝ高仕候り之上
若年寄 御用番へ遣ス
御側衆 御用番へ相
右之通ゝ答

内々療早出番宛
然倉無庵

浅草寺人宛
田村長元

小普請組
坪内玄蕃組宛
冥加保典

吉田安芸守宛
村上良元

南鍋宛
三宅村玄翊

石川土佐守宛
土岐元貞

同
吉田松庵

同
田沢元丈

（迎）宛
木村書集

浅草佐倉宛
木下春仙

山口宛
大路玄沢

右之通り

辰七月廿二日
中田弥助殿へ申渡候ニ付
深川築地之新地之事

深川築地之新地

一 右地新規起立之儀ハ去戌年八ヶ年季ニ而
訓地ハ用捨之地面ニ而猶又願之通り地代
上納いたし候六拾年賦之分料地代差上度
願之通申付候ニ付新規地代金ニ而返済願入候

去帰り惣坪凡五百六拾八坪程之内五百四
坪程ハ去ル年今度取払深川奥川町続キ
辰大助御払御所(?)之月ゟ右家主江
一 同所信願之通百六拾八坪深川小川町吉兵衛
辰度助去ル年今度去年限之儀願之通
可申事

聞書

天明七未年正月十二日文八へ渡ス
　北町奉行所当番曲淵甲斐守
　　様

一同人組屋鋪見廻り御組与力橋本弥兵衛へ様
茅場町源左衛門と申者今朝妻大病を切殺候ニ付追而
候右者当番役人中江被仰渡候答申候旨申傳
中上候由

同十三日
右之者之儀来右之段御吟味之上被仰付候
平次右衛門屋分　山村信濃守様御書付を以
今朝本所右之御吟味之御組与力中平次
極之上右吟味より其上御免文写手右衛門妻大病
西尾隠岐守様御組与力竹内新左衛門より写申候
此文之趣承知仕候旨申上候由

天明六午年

今度出羽守小石川小日向根津谷中浅草市谷深川

筋ニ而所々罷在候上ハ水野ニ而一万石以下地方取

并切米之分ニ而勤仕並寄合相勤候者迄ニ而割を

以金子割合張紙之通可相備候　御旗本御支配頭

迄兼而之形之通元方御金蔵へ可相渡　地方ハ当年

御切米之通可差出候

但遠国地役人ニ而御代官支配役宅ニ罷在勤候

者并宅地有之候面々御備不及候

高并請之分者当年十月ゟ十二月迄可差出

高之内米之通納金無之者ハ当年之御切米金

米之通可納候

右之通可被相触候

八月

出米并津儀令割合之覚

一 拾五石以下ハ　合之壱毛

一 拾五石より拾九石之　合之壱毛弐分

一 弐拾石より弐拾九石之　合之弐毛

一 三拾石より三拾九石之　合之三毛

一 四拾石より四拾九石之　合之四毛

一 五拾石より五拾九石之　合之五毛

一 六拾石より六拾九石之　合之六毛

一 八拾石より八拾九石之　合之八毛

一 九拾石より九拾九石之　合之九毛

一 百石より百四拾九石之　合之拾毛

一 百五拾石より百九拾九石之　合之拾五毛

一 弐百石より弐百四十九石之　合之弐拾毛

一 三百石より三百九拾九石迄　金弐拾五両

一 四百石より四百九拾九石迄　金四拾両

一 五百石より九百石迄　金五拾両

一 千石より九千石迄　金百両

但切米ニ而ハ百石百俵之積ニ而可被下候、切米
並ニ御扶持方斗ニ而被下候者ハ壱人扶持五俵之積
金給之者ハ壱両ニ付壱石之積たるへく候

右之通可被下置候事

一 午八月

寛政元酉年三月廿六日
山村信濃守殿より組与力同心風之
出役之儀ニ付御伺済之事
是ハ同年正月十三日被
岩田摂津守殿より渡ニ付

与力

一 麻上下　絹上下　横麻之類出用可申事
但裏付上下絹紬之類並嶋川越平
郡内平之類者用ひ申間敷、着服ハ絹紬

子細之義未申下事

一 色々威以下未申下候先ハ結紐重之色目
可被申事

一 於伯七之子第一精好縅紐之義別而口伝
可被申候

一 大小左右揚巻之緒之外無甲之目立由承申候未
用申可申事

一 蛭巻之蛭巻板合様色目被申可申候

一 妻取目立之義色目並被申可申候

一 目立之事紐之事さし之外揚巻并紐細之
未用申可申候

一 鞢甲之鋲并紐之色目揚巻之緒目板之未糸之色
中可申候

一 門人

一 麻上下結様之義未用申候
但陣羽織之結様之事未用申候色之事
丹後守之義ハ古ハ未用申可申候

一 惣服紗紬木綿并二重もミ之外用申間敷事
但紬類之外之ハ紫用申ニ付可為無用事

一 縮緬繻子羽二重ハ小紋之外ハ紫用致可為無用事
但儀式之節ハ右之通上下着用可申事

一 大小之刀拵之儀紺之目貫之外ハ決而無用
可為無用事

一 妻娘衣類之儀紫用ニ不及候ハヽ可為無用事

一 同之下女限帯之外ハ木綿ニ限候限絹
二相用ニ可為無用事

一 衣類甲斐并振舞等万端質素ニ取繕倹約可致事
右
之条

一 村役人共急度相守若違犯之輩有之ニおゐてハ可為曲事者也
以来急度可相守候
三月十九日

寛政三亥年正月

一 日光御門主様より年頭御書

御用番御老中若年寄より日光

御留守居江来候ニ付 御目付衆ゟ申来候事

右御用ニ来候付同役中江も達候ニ付旅宿江飛脚を以

来候事 則御目付衆江相廻候

御用之品御届ケ可申上旨左之通

御目見より以下之衆 是ハ品々申入候 大

日光御来礼御用ニ付 当年も無之 年頭次第

之書付ニ来候趣承知

御目付衆より書付を以申来候ハ今般此年

右之趣ハ老中方より日光御門主様へ

以書面申上候ハ旁御勘定方御達之節

何も右之通可被仰付候 以上

亥正月十八日

寛政七卯年七月改

町奉行

阿部右京亮殿

御徒目付

手前御下　奥田兵左衛門

上若宮町　古郡喜三郎

小人目付

東元町　和田又次郎

坂本町　伴田久兵衛

南伝馬町　松永吉助

大伝馬町　大野右門

樽屋十郎兵衛殿

御徒目付

本両替町　奥村伝三郎

小谷加茂屋　樋口隆次郎

小人目付

瀬戸物町　小幡兵右衛門

本船町中山　大和屋善八

奉書本所　吉田左金治

同　合御所　小林弥平次

寛政六寅年三月廿九日

右住侍従殿　嘉山下御用懸り　新殿番所御免

右甫之丞　新井隠岐守殿　御差添

右御取締

右御普請目付　内藤甲斐守

隠岐守殿

永井隠岐殿

右之通被仰付候段永井隠岐守殿被仰渡候

諸向江近付候段被仰付候大通達被之旦

多人数申集り候ハヽ入念ニ可申合候事も
不及申ニ大分之者共有之[illegible]
取立候者共可致[illegible]之者相改候様
日頃心掛可申候
御上之御厚恩を存 仰付候様ニ而
不届之者急度可申付候

右之通

何国何郡何村
名主
久兵衛印

秘書目録

一 隠居人之子孫買之事 付 出家之事
一 長脇差之事 同人宿之事 付 ……
一 赤面道具之事 入魂之事
一 南蛮切支丹宗門之事
一 質取利下ケ 付 ……
一 御殿門番所公儀之事

一 座頭盲僧令議論之成敗
一 云上西帳付改方
一 仮橋出張人同様番以下一統之申立
一 掛之兼方
一 永代新大橋大川橋渡候上
一 医師浪人白帷子
一 文化度絵入読本
一 髪結取付
一 日本政事之人本書
一 袢之事
一 町奉行下役夜廻之節席順之事
一 町名主并古着売服之事
一 松浦河 組屋敷之事
一 盧宗作之事

一本所之方止宿候
一不審併余人出入可致事
一猪同鳥殺首路文化致
一貢堤より大河半度

明和六丑年十二月廿九日
板倉佐渡守殿江御渡候御書付

大目付 御目付

他人を害候者休候倍阿浪人にて重キ者程相当候
殺候者へハ程前々申付候享保十八丑年相定
右殺候者へハ程有之又浪人近之事ニ候旨致

元禄辛未年より文政寅年迄同様之書付

右之趣何れも去寅年之書付

十二月

寛政十年午十二月廿六日松平伊豆守殿江尾張殿家老竹腰三郎兵衛を以

御渡候書付

右ハ大目付江渡候

関東筋之取締向之書付御渡候書付

書面同様通り相心得候様

寺社領[illegible]

中之分[illegible]

午十二月廿六日

右之趣

関東筋之儀ニ付風俗不宜之取締候様

右之段[illegible]書付之趣[illegible]

可相達旨申渡候ニ付、右之段書付を以申上候
御座候、吟味仕候様ニ相成候ニ付、右書面之通り御座候
證文并書付之趣を以相尋候処、右之通相違無御座候
書付御差出之節、右之通相違無御座候、右之趣相心得候
御座候、右書付之趣ニ而郡奉行ニ而も御座候ニ付相達候
取合候様致候得共、右之趣を以差出候様可被仰付候
其後関東御代官陳屋有之候ニ付、右之趣御掛ケ合申候
四ツ時ニ罷出候処、右之通被仰渡候ニ付、承知仕候

見廻り之上相伺候て夜ニ入候ニ付、右之段申上候
検見之節御用ニ而も文言之儀ニ付、右之趣を申上候
其外往返之節、右之趣申渡候、尤人足之儀ハ
村見廻り之上、相改候ニ付、右之趣申上候
定免場所ニ而も、諸向ニ而往返もいたし候
村々廻村之節、右之通ニ而相心得候
一 同所ニ而夜分ニ相成候ニ付、後刻相伺候、以上
右之趣を以、御届申上候

来錦ニ付大縞大形ニ唐紬并ニ衣類等ニ至迄も
のハ見當り次第ニ取上ケ之旨沙汰候間右之通急度相守候
且長脇差之儀も寸尺相極候上ハ長脇差之儀
刀ニ准し候間右ニ付長く候ハヽ百姓町人共ニ
差候又ハ帯候もの深く咎ニも可相及候不届
一 私共様之義往古ゟ仕来候一件ニ付右之通相定候趣申渡候
重立候者共ニ而往古ゟ仕来候ニ付御咎ハ無之候得共
之内ニ而も其時節ニより長脇差之儀も有之候ニ付

私共も前々ゟ古来之仕来ニ而も不申候ニ付右之分ハ可差止候
重役之御方ゟ被仰渡候ニ付長脇差之内ニ而も右之分差出
候ニ付尤代々之もの右之通召上ケ之候正月迄之儀
長脇差之儀共ニ取上ケ候且又百姓町人共ニ相改候
私共之儀ニ付相改申候御答之上被仰付候
来候間
右之通之趣ニ付代々被仰渡候役人中ニも申達候所不残
中役人共之内ニも百姓町人以下之分ニ而無之候も

同心格右申渡百石以下之分も右准し可申渡

尤百石之分ハ右躰支配江相達し可申候

但寺社領百姓ハ地頭領主より申渡候

御料ハ御代官ニ而支配所江相触可申候

寺社領之分も右同様寺社奉行より可申渡旨書付

之通可被相触候

右之趣可被相触候以上

午三月

柳生主膳正

根岸肥前守

中川飛騨守

石河近江守

菅沼下野守

一 町人ニ限らす在々之百姓ニも裕福成者有之候ハヽ
家業有之者又ハ外ニ而も格別ニ富候者ハ猶更御尋可有之事ニ
一 右之外今般申渡候書付ニ而相知候分ハ難相知候ハヽ御尋有之
寄合並無役之輩ハ書付ニ而相渡候ニ付而有之候様可被仰上

享保五年子六月廿日

戸 山城守

中山出雲守殿
大岡越前守殿

右之書付同日評定所ニ而従山城守越前守江相渡申候

度旨達御聴候処

所々脇差し候而茂苦からす恰好之者ハ差候而も不苦旨

も申候得ハ、右兼而何之差別も無之候得共脇差帯候ニ付

而ハ伴ニ而も不苦、何之指別も無之、大方差候得共帯中故も有之

候而差支ハ御座候由申上候得ハ

一 脇差寸法之儀、七拾六年以前正保弐年酉七月壱尺

八寸ニ相極候旨、夫より以来相守候而、其後右寸法ニ付解書御座候

寺社方寸法之儀、所々ニ而ハ不分明ニ而通り相済来候

一 先年ハ長キ脇差し不申候、併猿楽之者共婚礼葬

礼之節ハ長キ刀差候由申伝申候、五十三年以前寛文

八年申三月所々刀差候儀御停止被仰出候、以後長キ不申候、然

猿楽之者共ニ限り格別之由ニ而、同月刀御免ニ而候得ハ

下札

> 此猿楽之者共ニ長刀帯候儀、三拾八年以前天和三亥年十二月
> 御停止ニ被成候

一 右同年同月、技術之者共ハ所々ニ而刀帯候儀御免被成候処ニ而候得共、但

依御用之者ハ被召出候ニ付、[illegible]

右外ニ

一　町年寄共之内町人帯刀御停止ニ相成候年来より苗字帯刀
為御免被成下候、其以後天和三亥年十二月御扶持人町人
町年寄共へ帯刀御免被成候所御停止ニ相成候段、今度其通リ被仰付

享保五年子六月廿七日

中山出雲守

大岡越前守

右書上之通承認十七日其通ニ而同心被申候
其通りニ而伺を以申渡候よし

文化元子年九月　御書付を以被仰渡
町方之者共武術稽古之儀、町人ニ而武藝稽古致候者
此度年寄名主共より被申渡候事

安永六酉年五月廿七日
本丸通役八郎兵衛若年来女人一代限聞之
[illegible]
本多方

内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan